令和元(2019)年
11月1日
第222号 毎月発行
編集 公民館だより編集室
発行 西東京市公民館
毎月第４月曜日は休館日です

西東京市 公民館だより

今月号の内容

2面…家庭の教育力向上講座、人権講座、子ども対象講座、料理講座、防災講座、親子体験講座、多文化カフェ　ほか
3面…ヤギフェス vol.9　柳沢みんなの文化祭　ほか

柳沢公民館　柳沢１－15－1　☎042・464・8211　kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館　南町５－６－11　☎042・461・1170　tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館　芝久保町５－４－48　☎042・461・9825　shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp
谷戸公民館　谷戸町1－17－2　☎042・421・3855　yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館　ひばりが丘2－3－4　☎042・424・3011　hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館　東町3－14－30　☎042・421・1125　ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

あま水の通りみち
～新川を追う～

昨年、平成３０年11月1日発行の第２１０号の一面特集「水の路、生活の灯」では、高低差に着目しながら、市内の窪地を流れる自然の水路と高い所を流れる人の手でつくられた水路を紹介しました。この時の特集で取り上げなかった新川は、大部分が暗渠（あんきょ）となっています。編集室では、起点から練馬区との境まで、新川のコンクリートのふたの上を歩いてみました。

上保谷のシマッポ

新川は、練馬区の井頭池(現在は大泉井頭公園)を源流とし、新河岸川に注ぐ「白子川」の支流のひとつです。市内には、もうひとつ、北部を流れ、「白子川」あるいは「大泉堀」と呼ばれる支流があります。

新川は、平時は流水がなく、豪雨等の後にだけ水が流れる溝状の水路で、「上保谷のシマッポ」、「ホリッコ」と呼ばれていました。(大泉堀は「下保谷のシマッポ」と呼ばれていました。)シマッポは、雨の後の野水を排水する役割も果たしていたので、「悪水路」とも呼ばれていました。

新川の起点

新川の起点とされる所は２か所あります。北側は、谷戸町一丁目の谷戸新道沿い(谷戸町三丁目としている資料もあります)から、南側は、緑町一丁目の東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構内から始まります。

地下水堆（たい）

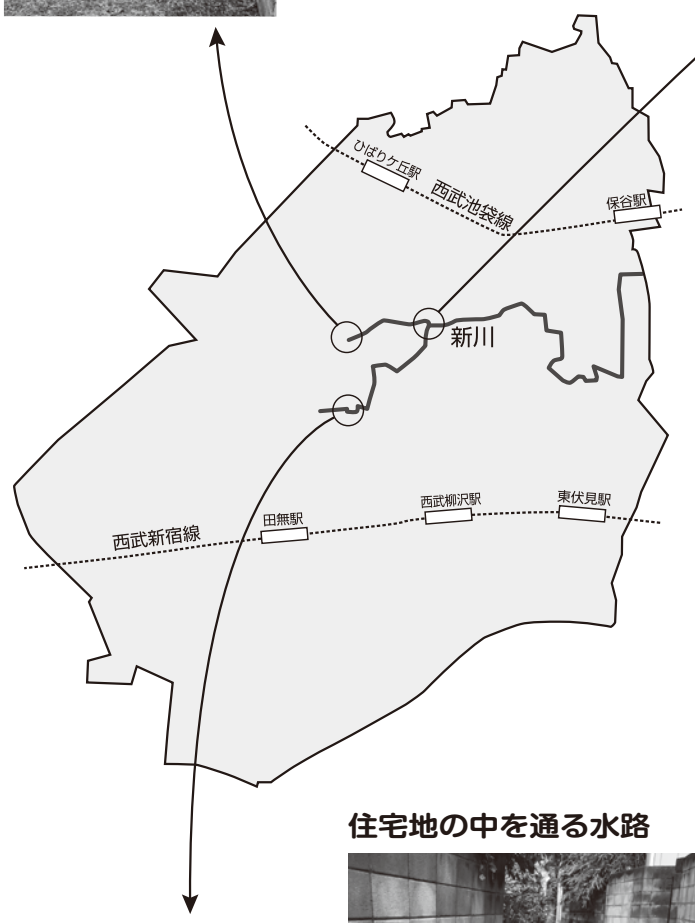
泉町から谷戸町一丁目、東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構にかけては、地下水位が地表から2メートル程度と浅くなっています。これは、地下水がドーム状に盛り上がっている「地下水堆」によるものです。粘土質化したローム層が局部的に発達して不透水層を形成し、地下水が滞水しています。新川の源流域には「上宿地下水堆」が広がっていて、新川はその真上の窪地を通っています。大雨が降った後だけ水が流れるのは、地下水堆の水位が上がり、地上に溢れ出すためでした。

新川が流れている地域は、かつて、上宿、大門、鳥久保、天神山と呼ばれていました。上宿、大門は早くから開けたところで、四軒寺と呼ばれる、東禅寺、宝樹院、宝晃院、如意輪寺があり、市もたっていたそうです。浅い井戸の地域で、集落も早くからできたといわれています。

北側と南側の２つの流れは、泉町二丁目、如意輪寺の西南で合流します。この地域には、かつて「マツバ池」とよばれる池がありました。地下水堆が地上に姿を現し、池となったものです。その西側には、「ツルマの弁天池」がありました。

白子川へ

合流した後、新川は旧泉小学校の北側を東向し、保谷庁舎付近からは幅を狭め、鳥久保とよばれた窪地(中町)を通って、かえで通りの天神山交差点あたりから北上し、保谷駅近くで向きを東に変え、練馬区へと続いていきます。そして、白子川へと流れています。



暗渠になっていない水路

北側の水路の起点

北側の水路と南側の水路が合流するところ

両側に草木がしげる水路

住宅地の中を通る水路

住宅地の中で確認できる南側の水路の起点

水路の脇で見つけたカラスウリのつぼみ

新川のふた掛け工事
(中町一丁目。右側が保谷庁舎)
昭和47(1972)年撮影
西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵

声の「公民館だより」をお届けしています。知り合いで希望される方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館（電話042-421-4545）へお問い合わせください。